

## 感染症の発生について(情報提供)

## 【概要】

医療機関から腸管出血性大腸菌(O165)感染症の発生届が当保健所にありました。  
内容につきましては、下記のとおりです。  
これは感染症法第16条に基づく発生動向情報であり、感染予防について呼びかけるものです。

病名	腸管出血性大腸菌(O165)感染症
年齢及び性別	2歳・男児
職業	なし
住所	四日市市
発病年月日	平成30年7月24日
診断年月日	平成30年7月31日

## 【患者発生の経過】

- 7月24日 水様性下痢(4回/日)、腹痛、倦怠感症状が出現。  
7月25日 水様性下痢(4~5回/日)、腹痛、倦怠感症状が継続するため医療機関を受診。  
7月26日 水様性下痢(2~3回/日)あり同医療機関を受診。  
7月28日 水様性下痢(3回/日)あり。  
7月30日 軟便(2回/日)あり。  
7月31日 7月26日の便検査から、腸管出血性大腸菌感染症と診断された。  
7月31日現在、下痢症状はおさまっています。

## 【防疫措置】

家族・接触者の健康状況調査及び検便の実施

## 【四日市市内の腸管出血性大腸菌感染症の発生状況】

平成30年1月1日～平成30年7月31日現在まで本件含む ( )内は三重県内の発生状況

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
患者	5 (39)	5 (27)	6 (29)	3 (29)	2 (12)
保菌者	1 (19)	2 (10)	1 (15)	4 (13)	2 (6)
計(感染者)	6 (58)	7 (37)	7 (44)	7 (42)	4 (18)

## 【自分で出来る予防対策】

## 1 予防の3原則

## ①加熱(菌を殺す)

この菌は熱に弱く、75℃、1分間の加熱で死滅します。  
肉の生食は避けてください。特に子どもや高齢者は注意してください。  
ひき肉は、十分に加熱をしましょう。  
焼肉を食べる時は、生肉を取る箸と食べる箸を使い分け、よく焼きましょう。  
井戸水は、煮沸してから飲んでください。

## ②迅速・冷却(菌を増やさない)

調理した食品はすぐに食べましょう。

## ③清潔(菌をつけない)

手指や調理器具は十分に洗いましょう

## 2 暴飲暴食は避け、睡眠を十分にとるなど体力・体調を保ってください。

## 3 腹痛・下痢等の症状がでた場合、すぐに医師の診察を受けてください。

## 連絡先

四日市市保健所 保健予防課(059-352-0594、059-352-0595)

担当： 岡本、上原